

①地区の概況

蒲生地区は、市域の南部に位置し、地区の南端に綾瀬川が流れ、瓦曾根地区の北側には元荒川が流れています。

東武鉄道伊勢崎線（東武スカイツリーライン）の蒲生駅、新越谷駅とJR武蔵野線の南越谷駅の3つの駅を有する交通利便性の高い地区です。

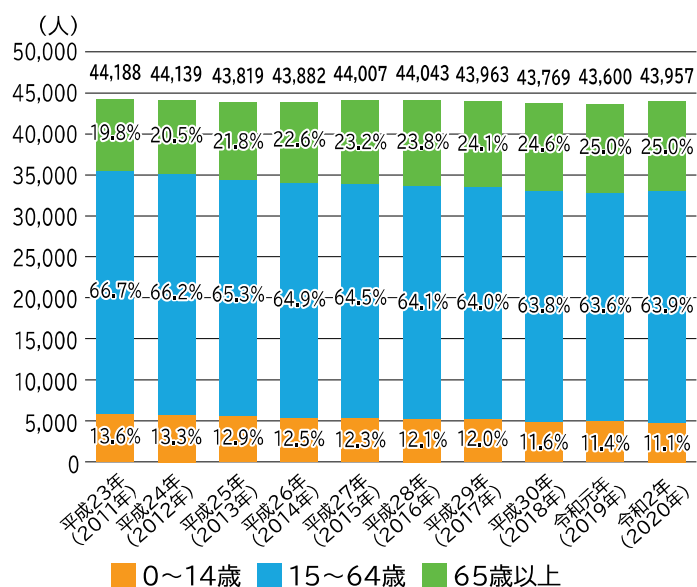
土地区画整理事業*によって都市基盤*が整備された良好な住宅地が広がっており、本市の顔となる新越谷駅及び南越谷駅周辺には、商業・業務、医療・福祉・子育て支援など多様な都市機能が集積し、蒲生駅周辺には住民の日常生活を支える商業地が形成されています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で43,957人と、市全体の約12.8%を占め、2番目に人口が多い地区となっています。近年は44,000人程度で概ね横ばいで推移しています。

土地利用は、ほぼ全域が市街化区域となっているため、住宅用地を中心とした都市的土地利用の占める割合が約64.0%と高い割合となっており、田や畑、その他の自然地などの自然的土地利用の割合は約4.7%と非常に低くなっています。

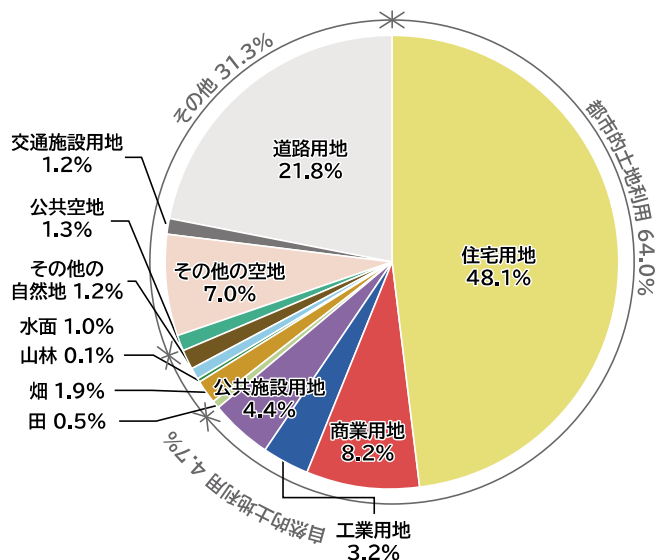


■蒲生地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■蒲生地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた蒲生地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 暮らしやすい居住環境づくり

方針2 にぎわいのある魅力的な地区づくり

方針3 安全・安心な地区づくり

方針1 暮らしやすい居住環境づくり

■良好な居住環境の形成

・蒲生旭町や蒲生三丁目などでは、工場等から住宅へ土地利用の転換が進んでいるため、周辺環境に配慮しながら、住居系土地利用への変更を検討するなど、適正な土地利用の誘導を図ります。

■協働による居住環境の維持・充実

・交通の便に優れ、生活利便施設が立地するなどの地域特性を活かし、多様な交流によるコミュニティ活動の充実やエリアマネジメント*等を実施しながら、にぎわいの創出や地域の活性化などに努めます。

・地区内に多く立地しているマンションの居住環境等の維持に向けて、マンション管理組合の活動を支援し、良好な居住環境の維持に努めます。

■集い憩える公園づくり

・地区の身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 公園施設の適正管理・更新

方針2 にぎわいのある魅力的な地区づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

- ・新越谷駅及び南越谷駅周辺については、行政、文化、商業・業務、医療・福祉・子育て支援機能などの多様な都市機能の集積や商店街など地域の活性化を図り、にぎわいの創出と魅力ある市街地の形成に努め、都市の顔となる都市拠点の創出に努めます。
- ・蒲生駅周辺については、商業・業務機能の集積・誘導を促進し、商店街や空き店舗の活用やイベントの開催などのにぎわいの創出を図り、日常生活を支える生活拠点の創出に努めます。

主な施策

- 南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業の推進
- 越谷サンシティの整備

■水と緑のネットワーク形成

- ・地区内の^{あやせがわ}綾瀬川など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策

- ^{あやせがわ}綾瀬川緑道の整備

■越谷らしい景観形成の推進

- ・^{あやせがわ}綾瀬川や谷古田用水などの水辺空間を活かした緑道等や蒲生の一里塚*をはじめとする歴史・文化資源など、本地区が有する地域資源の保全・継承と積極的な活用を図り、愛着や誇りを持てる景観づくりに努めます。



蒲生商店街



谷古田河畔緑道

■都市の発展を支える道路網の形成

- ・円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の整備や調査検討、既設道路の適正な維持管理を推進します。
- ・交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。

主な施策

- 都市計画道路越谷吉川線の整備
- 都市計画道路南浦和越谷線の整備促進
- 都市計画道路蒲生柿木川戸線の調査検討
- 都市計画道路鳩ヶ谷別府線の調査検討

■市民生活を支える公共交通網の形成

- ・公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。

主な施策

- 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

■防災・減災*対策の推進

- ・災害時の指定緊急避難場所*や指定避難所*となる公共施設や公園・緑地への防災備蓄倉庫などの関連施設の充実・強化に努めるとともに、災害リスクや避難場所などの情報を周知し、日ごろからの防災意識の向上に向けた取組を促進します。
- ・浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- ・地震発生時に倒壊が懸念される建築物やブロック塀等については、所有者等へ日常的な点検・管理の周知や啓発により、安全性の向上に努めます。

■防犯対策の推進

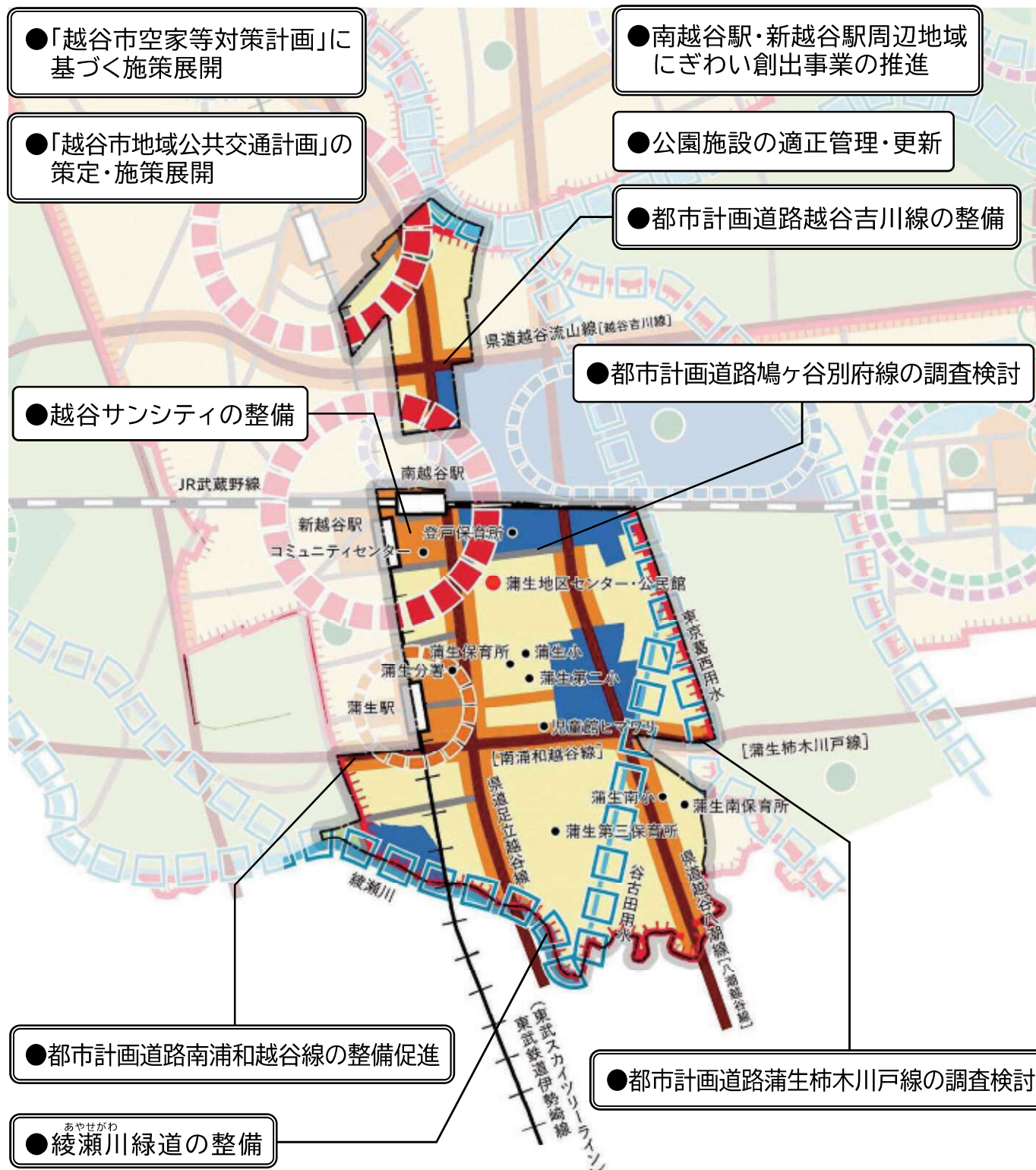
- ・犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- ・地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- ・空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策

- 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開

■蒲生地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



都市拠点	商業・業務系エリア	地域高規格道路	都市基幹公園
生活拠点	工業・流通系エリア	主要幹線道路	住区基幹公園 (近隣公園以上)
文化教育創造拠点	住居系エリア	幹線道路・補助幹線道路	環境保全区域
観光・交流拠点	集落エリア	鉄道・駅	水と緑の軸
産業拠点	農業振興エリア	鉄道高架の推進	河川・水面
緑・親水拠点	地区センター・公民館	市街化区域	
医療拠点	地区内の主要な施設		

※[]内は都市計画道路名称

0 250 500 1,000メートル

N

蒲生地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《蒲生地区の将来像》

緑豊かな 心ふれあう ふるさと蒲生

《蒲生地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 目標1 | あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり |
| 目標2 | 子どももまちもみんなで育む ほどよく“おせっかい”なまちづくり |
| 目標3 | 安全で安心して暮らせるまちづくり |

《蒲生地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・住民も多くコミュニティ活動も盛んな蒲生地区ですが、参加者や役員が高齢化しており、これまで以上に住民一丸となって、特に新規住民や若い人たちも参加しやすいコミュニティを積極的に作り上げていく仕組みが求められます。
- ・古くから発展してきた商店街が町のにぎわいの中心でしたが、以前ほどの活気がなくなっていることから、空き店舗の活用等、活性化に向けた取組が求められます。
- ・蒲生地区はこれまで、災害による大きな被害はありませんが、事故や犯罪、自然災害に対する日ごろの備えが重要であることから、地区としても住民の安全を守る取組が求められます。



三世代交流ふれあいハイキング



蒲生のマスコットキャラクター「がもピー」

①地区の概況

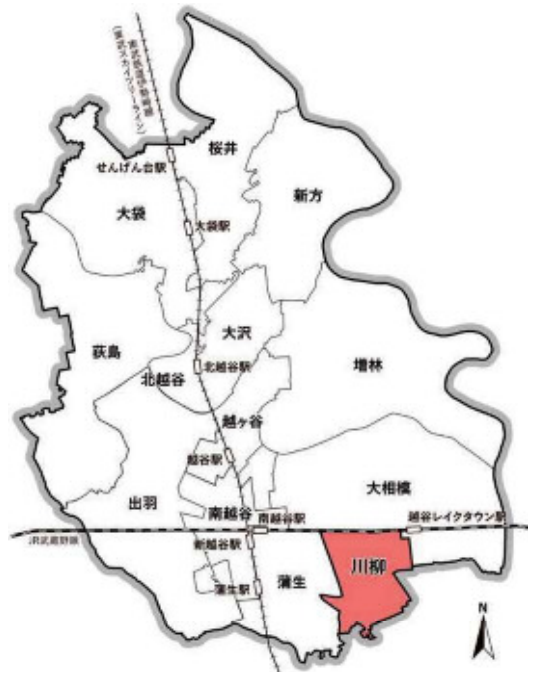
川柳地区は、市域の南部に位置し、地区の北端をJR武蔵野線が通り、西側に東京葛西用水、東側に八条用水が流れています。

地区の大部分を占める市街化調整区域には、田園環境や水路等の自然環境が残されていますが、小中学校などの教育施設も集積しており、住宅等も広く立地しています。

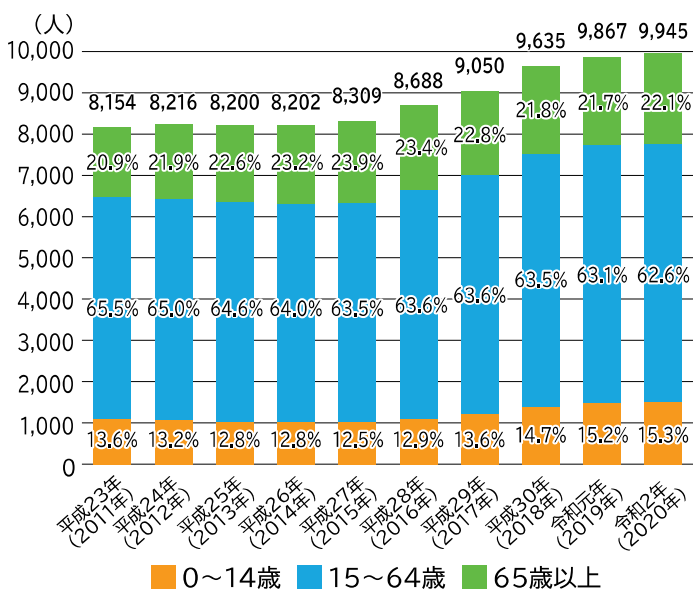
地区の北東と南西の一部が市街化区域となっており、その一部は越谷レイクタウン特定土地区画整理事業によって、水と緑が調和した潤いのある良好な住宅地が形成されています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で9,945人となっており、市全体の約2.9%を占めています。平成26年(2014年)まで人口は8,200人程度で推移していましたが、平成27年(2015年)以降、増加傾向に転じています。

土地利用は、地区のほとんどが市街化調整区域となっているものの、住宅用地などの都市的土地利用の占める割合が約48.1%と約半数を占めており、田や畑、その他の自然地などの自然的土地利用の割合は約20.6%となっています。

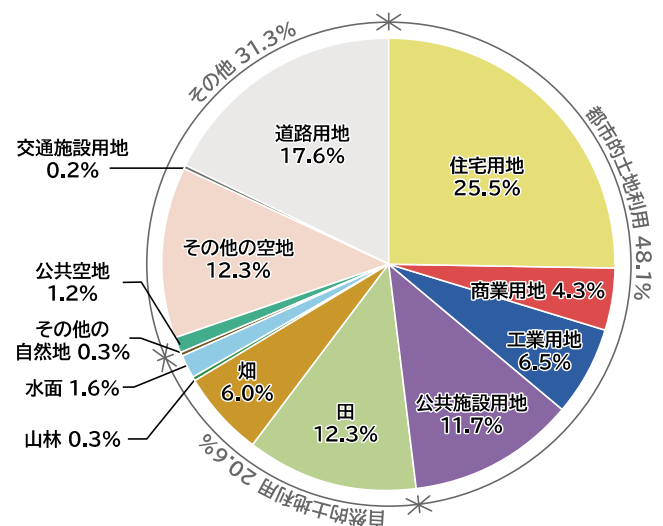


■川柳地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■川柳地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた川柳地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 暮らしやすい居住環境づくり

方針2 地域資源を活かした魅力づくり

方針3 安全で快適な交通環境づくり

方針4 防災力の高い地区づくり

方針1 暮らしやすい居住環境づくり

■福祉の都市づくりの推進

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活することができるよう、地区センター・公民館等を中心に、地域住民の交流の場を確保しながら、福祉や子育てサービスの充実を図ります。

■都市施設*の適正管理

- 公共下水道(汚水)については、現在の事業認可区域までを整備区域とし、既存施設の延命化や耐震化を推進するとともに、市街化調整区域の居住地においては、合併処理浄化槽*の設置促進などの生活排水対策を推進します。

主な施策 合併処理浄化槽*の設置促進

■公共施設等の適正管理

- 地域で様々なコミュニティ活動の拠点となる川柳地区センター・公民館の適正な管理を行うとともに、施設の整備を推進します。

主な施策 川柳地区センター・公民館の整備の推進

■防犯対策の推進

- 犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- 地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- 空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開

方針2 地域資源を活かした魅力づくり

■水と緑のネットワーク形成

- ・地区内の東京葛西用水や八条用水など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策 八条用水緑道の整備

■集い憩える公園づくり

- ・既存の公園については、地域の実情やニーズ、役割、必要性等を考慮しながら公園機能の見直しについて検討し、公園の魅力向上に努めます。
- ・川柳公園などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 公園施設の適正管理・更新

■身近な緑の管理・保全

- ・地区内に広がる農地については、地域の意向を踏まえながら、営農環境の改善や体験農園の活用、企業参入の促進など、保全・活用に努めます。

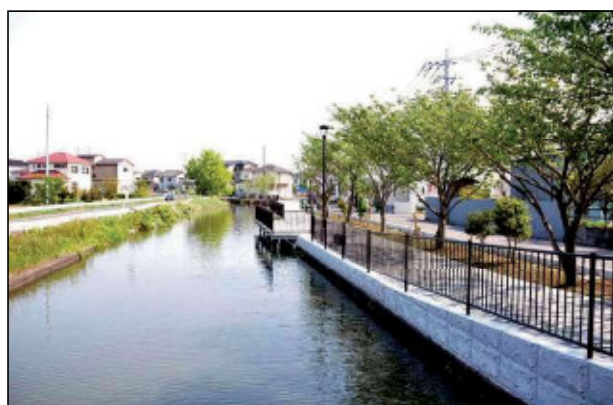
■越谷らしい景観形成の推進

- ・東京葛西用水や八条用水などの水辺空間を活かした緑道や農地、屋敷林*などの保全・活用を図り、水と緑のつながりのある景観づくりに努めます。

主な施策 屋敷林*の保全



川柳公園



東京葛西用水緑道

方針3 安全で快適な交通環境づくり

■都市の発展を支える道路網の形成

- 円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の整備や既設道路の適正な維持管理を推進します。
- 交通量の多い幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。
- 既存集落*における狭あい道路*については、災害時などの避難経路や緊急車両等の通行環境の確保に向けて、道路空間の改善などを図り、道路整備に努めます。

主な施策

- 都市計画道路蒲生柿木川戸線の整備促進
- 都市計画道路川柳大成町線の整備

■市民生活を支える公共交通網の形成

- 公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。

主な施策

- 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

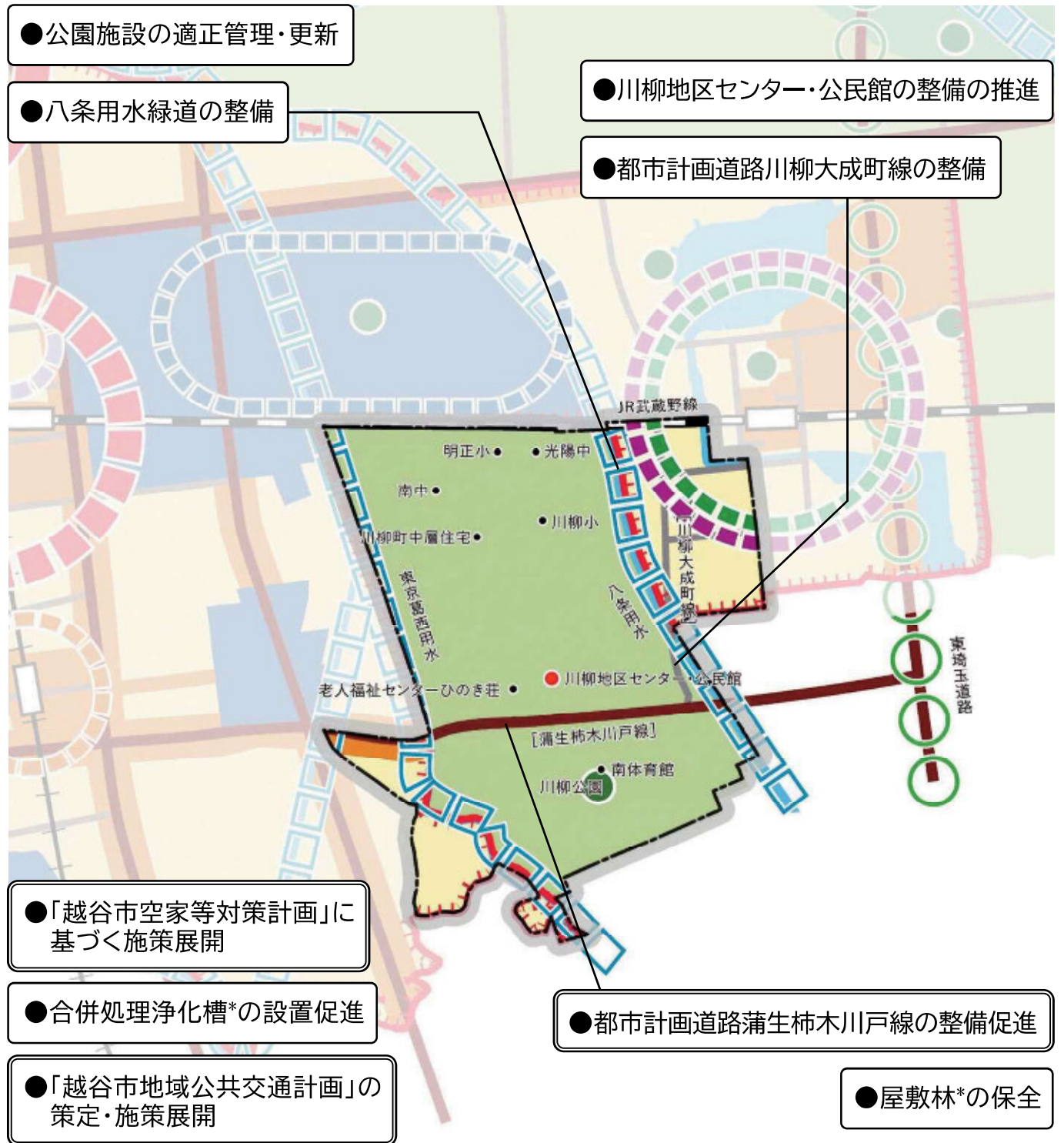
方針4 防災力の高い地区づくり

■防災・減災*対策の推進

- 災害時の指定緊急避難場所*や指定避難所*となる公共施設や公園・緑地については、誰もが安全・安心に利用できるように、更なる機能強化に努めます。
- 浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- 災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

川柳地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



川柳地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《川柳地区の将来像》

豊かな自然と郷土愛あふれる快適なまちづくり

《川柳地区のまちづくりの目標》

目標1

川柳の良さをさらに推進する新たな地域活動の拠点づくり
(新たな地区センターの整備)

目標2

美しく住みやすい安全・快適な住環境づくり

目標3

犯罪を未然に防ぐとともに、災害に強い地区づくり

《川柳地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・地区内の豊かな自然や田園等の景観を残し、活用していく方策が必要とされているとともに、きれいで住みよい居住環境の形成のため、市街化調整区域の公共下水道の整備や、農業用水と生活排水の分離等の生活排水対策が求められます。
- ・文教地区として、子どもたちの安全な通学路の整備を行っていくとともに、災害や犯罪・事故から地域住民の命を守るため、日ごろから防災や防犯、交通安全等の取組を進めていくことが求められます。
- ・コミュニティ活動や教育、福祉、防災等の拠点となる地区センターは老朽化が進んでおり、耐震化等の対策も必要なことから、さまざまな機能を有した新たな地区の拠点としての整備が早急に求められます。



川柳生き物調査



川柳地区夏祭り

①地区の概況

大相模地区は、市域の南東部に位置し、北側に元荒川、東側に中川が流れています。

越谷レイクタウン駅周辺では、越谷レイクタウン特定土地区画整理事業により、水と緑が調和した新たな市街地が形成されています。大相模調節池や日本最大級のショッピングセンターを有しており、市内外から多くの人々が訪れています。

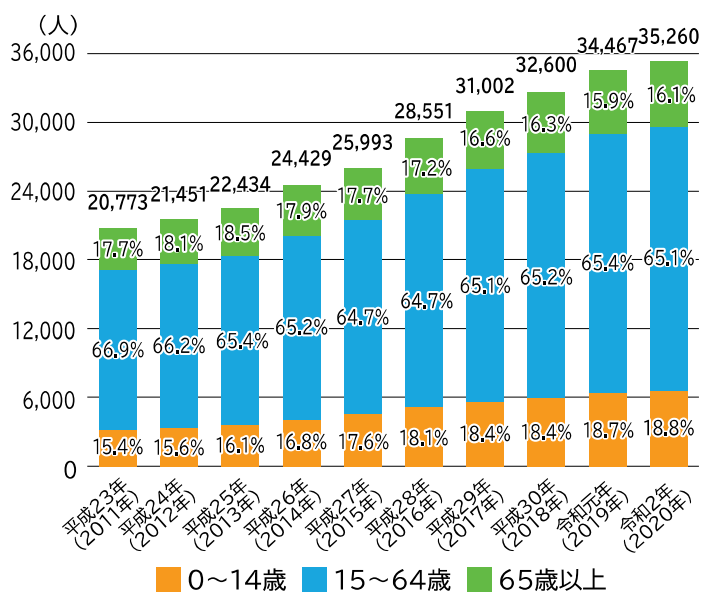
地区の西側には、住宅地とともに流通業務地区*が形成されています。また、地区の北側と東側の市街化調整区域には、農地や集落が広がっており、屋敷林*や河川・用水等の自然環境も多く残されています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で35,260人となっており、市全体の約10.2%を占めています。越谷レイクタウン特定土地区画整理事業による新たな住宅地の整備により、人口は大幅に増加しています。

土地利用は、商業用地や工業用地の占める割合が他地区と比較すると高く、都市的土地利用の占める割合は約44.6%となっています。また、大相模調節池や河川・用水を有しているため水面の割合が約7.4%と高く、自然的土地利用の割合は約24.2%となっています。

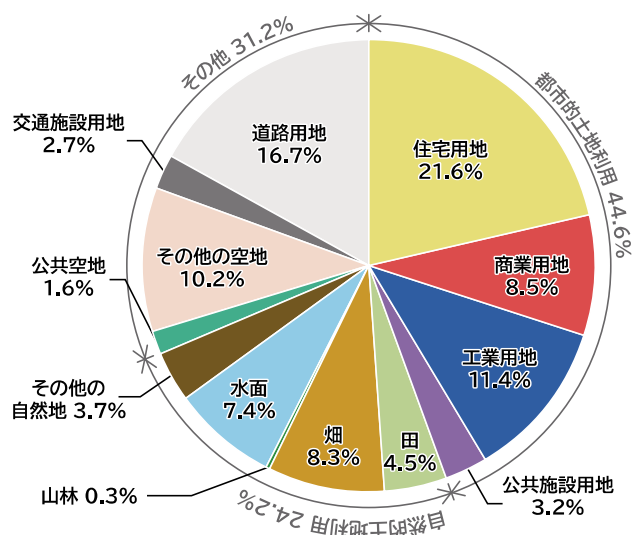


■大相模地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■大相模地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた大相模地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 魅力と活力あふれる地区づくり

方針2 安全で快適な交通環境づくり

方針3 水と緑と農地の保全・活用

方針4 安全・安心な地区づくり

方針1 魅力と活力あふれる地区づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

・越谷レイクタウン駅周辺については、市民の生活利便性を支える商業・業務機能の集積・誘導を促進し、日常生活を支える生活拠点の創出に努めます。

■活力ある産業・観光の振興

・越谷レイクタウン駅周辺については、大相模調節池等の既存ストック*を活用するとともに、市民や事業者との連携・協力を図り、魅力ある観光・交流拠点の創出に努めます。

・越谷流通業務団地*を含む流通業務地区*については、産業構造の変化や市場ニーズに応じて、産業拠点として、物流施設やトラックターミナルなどを中心とした流通機能の維持や更なる活性化に向けた土地利用の誘導を推進します。

方針2 安全で快適な交通環境づくり

■都市の発展を支える道路網の形成

・広域道路ネットワークの充実に向け、地域高規格道路*である東埼玉道路*(自動車専用部)の整備を促進します。

・円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の整備や既設道路の適正な維持管理を推進します。

・交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。

・歩行者を優先する通学路や生活道路では、車の速度抑制、ガードレールによる歩車道の分離など、歩行者の安全を確保する対策を進め、安全・安心に利用できる道路環境の形成を図ります。

主な施策

- 都市計画道路東埼玉道路*の整備促進
- 都市計画道路越谷吉川線の整備促進

■市民生活を支える公共交通網の形成

・バス路線の維持・充実に努めるとともに、市民や事業者との連携・協働を図りながら、新たな公共交通の導入についても検討します。

主な施策 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

方針3 水と緑と農地の保全・活用

■水と緑のネットワーク形成

- ・貴重な動植物の生息・生育空間となる河川・水路や緑道、大相模調節池等については、生態系に配慮した整備と適正管理に努め、水辺空間の保全・活用を図ります。
- ・大相模調節池は、市民が憩いと安らぎを感じられる場や親水性を活かしたレクリエーション*、イベントの場として利用・活用されるよう、魅力的な緑・親水拠点の創出に努めます
- ・地区内の元荒川もとあらかわや八条用水、東京葛西用水など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策 大相模調節池の水辺空間の有効活用

■集い憩える公園づくり

- ・日常生活における身近な憩いの場やコミュニティの場として、また、災害時には一時的に避難できるオープンスペース*として利用・活用しやすい公園となるよう、地域ニーズや地域特性を踏まえながら、新規整備や機能の維持・充実に努めます。
- ・レイクタウン地区内などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 (仮称)大成町公園の整備
 公園施設の適正管理・更新

■身近な緑の管理・保全

- ・流通団地の緩衝緑地かんしょう*や幹線道路沿いの街路樹などについては、運転者や歩行者の視認性や安全性などに配慮した維持管理に努めるとともに、地域住民との連携・協働による管理・保全を推進します。
- ・地区内に広がる優良な農地については、地域の意向を踏まえながら、営農環境の改善や体験農園の活用、企業参入の促進など、保全・活用に努めます。

主な施策 優良な農地の保全

■越谷らしい景観形成の推進

- ・越谷レイクタウンなどの住宅地については、地域の個性を活かしながら、快適に住み続けられるよう、地区計画*や建築協定*などを活用し、潤いある緑豊かな街並み景観づくりに努めます。
- ・水辺空間を活かした緑道や農地、屋敷林*などの保全・活用を図り、水と緑のつながりのある景観づくりに努めます。

主な施策 地区計画*・建築協定*の維持・充実

方針4 安全・安心な地区づくり

■防災・減災*対策の推進

- ・中川の改修については、国などの関係機関に要望します。また、雨水流出抑制対策や農地等の保水・遊水機能*の保全などの総合治水対策*を推進します。
- ・浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、千足幹線排水路せんびきの改修を推進します。
- ・災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

主な施策 なかがわ中川の改修・堤防の強化の促進
 せんびき千足幹線排水路の改修の推進

■防犯対策の推進

- ・犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- ・地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- ・空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開



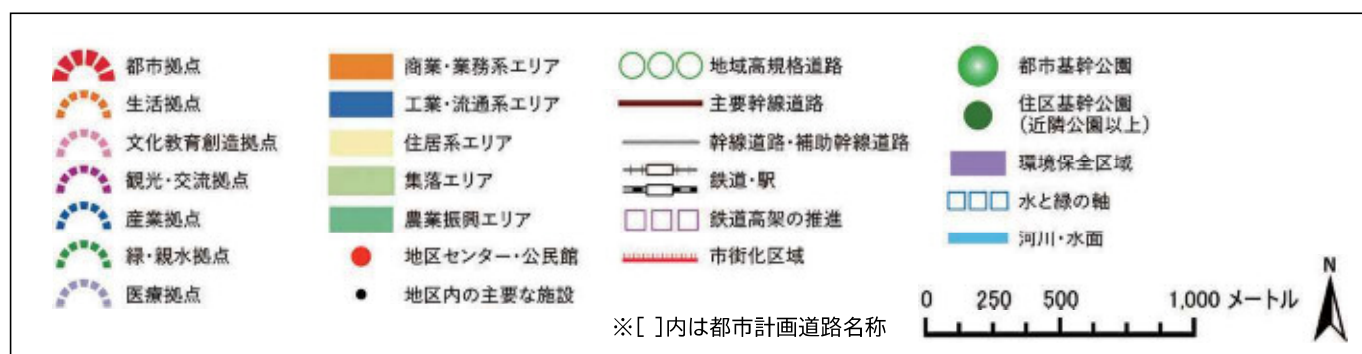
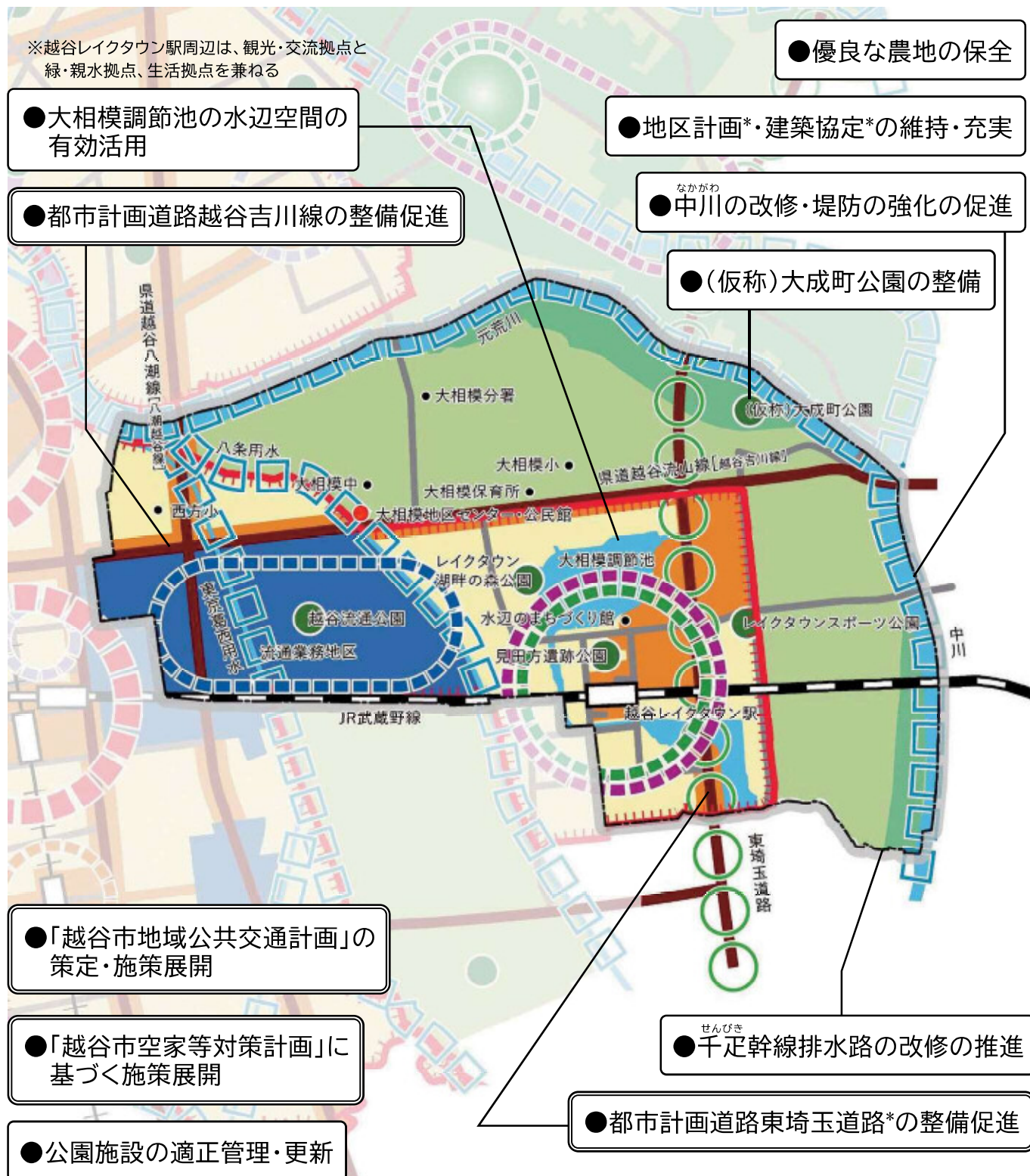
八条用水緑道



レイクタウンの街並み

■大相模地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



大相模地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《大相模地区の将来像》

ふれあい豊かな自然と歴史につつまれた
安全で住みよい都市をめざして

《大相模地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 目標1 | 地区住民・団体が一体となり、活発に交流・連携できる地域づくり |
| 目標2 | 快適に暮らせる安全・安心な生活環境づくり |
| 目標3 | 水と緑や古くからの歴史・文化を重視した魅力的なまちづくり |

《大相模地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・レイクタウン周辺の渋滞が多くなっていることから、幹線道路整備等の渋滞緩和の取組を進めていく必要があります。
- ・今後高齢化が見込まれることから、高齢者等が安心して住み続けることのできる地域づくりが求められます。
- ・河川と用水に囲まれた地形であることから、水害をはじめとした災害に強いまちづくりに向け、行政とともに取組を進めていくことが重要です。
- ・地区内の自然環境や景観資源を保全・活用するために、地域資源を活用したイベントの充実や農地の保全を図っていく必要があります。



大相模ひまわりフェスタ



不動橋こいのぼりフェスティバル

①地区の概況

大沢地区は、市域のほぼ中央部に位置し、地区の中央部には逆川が流れています。

北越谷駅周辺や旧日光道中(旧日光街道)沿いには宿場町として古くから開けた商業地や歴史が感じられる街並みが広がっています。また、その東側には土地区画整理事業*によって都市基盤が整備された良好な住宅地が形成されています。

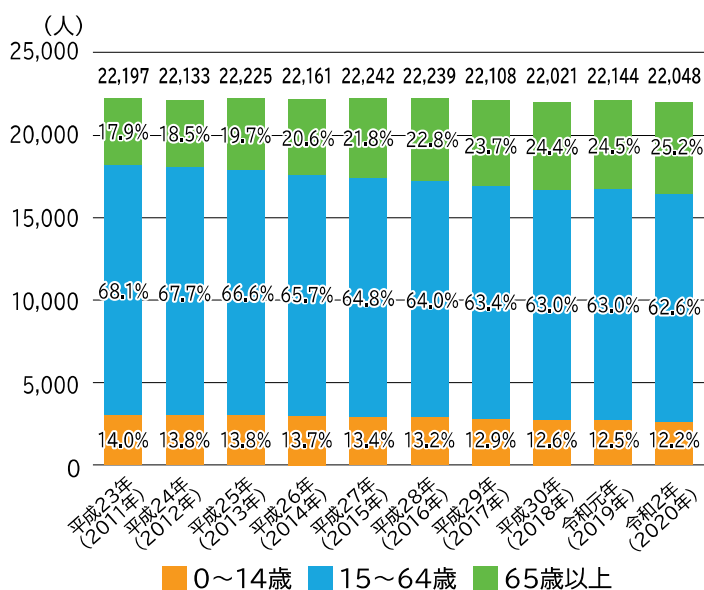
地区内には、地区のシンボルである鷲高第五公園(キャンベルタウン公園)が整備されており、逆川沿いにも桜並木や遊歩道など、人々が憩える親水空間が形成されるなど、良好な水と緑の資源を有しています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で22,048人となっており、市全体の約6.4%を占めています。人口の大きな増減はみられず、22,000人程度で概ね横ばいで推移しています。

土地利用は、ほぼ全域が市街化区域となっているため、住宅用地を中心とした都市的土地利用の占める割合が約65.0%と他地区と比較すると高くなっています。畑や水面、その他の自然地などの自然的土地利用の割合は約5.2%となっています。

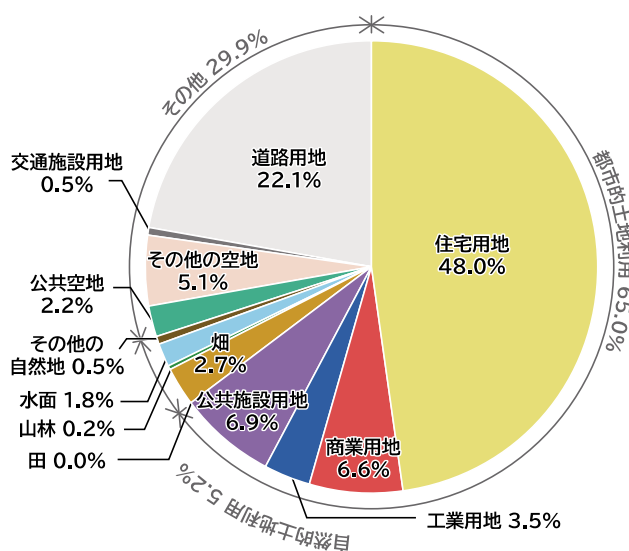


■大沢地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■大沢地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた大沢地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 便利で健康に暮らせる地区づくり

方針2 地域資源を活かした魅力づくり

方針3 快適に利用できる交通環境づくり

方針4 安全・安心な地区づくり

方針1 便利で健康に暮らせる地区づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

- ・北越谷駅周辺については、商業・業務機能の集積・誘導を促進し、商店街などの地域資源を活かしながら、日常生活を支える生活拠点の創出に努めます。

主な施策 都市計画道路北越谷駅東口線の調査検討(東口駅前交通広場)

■集い憩える公園づくり

- ・地区のシンボルである鷲高第五公園(キャンベルタウン公園)などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 公園施設の適正管理・更新

■公共施設等の適正管理

- ・第1・第2体育館については、新たな地域スポーツの拠点となる施設への建替えに向けた取組を推進します。

主な施策 (仮称)越谷市立地域スポーツセンターの整備

方針2 地域資源を活かした魅力づくり

■水と緑のネットワーク形成

・地区内の元荒川^{もとあらかわ}や逆川^{さかさかわ}(葛西用水)など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策

- ^{もとあらかわ}元荒川緑道の整備
- ^{さかさかわ}逆川(葛西用水)緑道の適正管理

■越谷らしい景観形成の推進

・香取神社・八坂神社や宿場町の面影を残す建築物などの地域資源の保全・継承や魅力創出に資する活用を図り、歴史・文化が感じられる愛着や誇りを持てる景観づくりに努めます。

方針3 快適に利用できる交通環境づくり

■都市の発展を支える道路網の形成

- ・円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の調査検討、既設道路の適正な維持管理を推進します。
- ・交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。

主な施策

- 都市計画道路東小林大沢線の調査検討

■市民生活を支える公共交通網の形成

- ・公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。
- ・北越谷駅は、鉄道やバス路線、タクシー、自家用車、自転車など、多様な交通手段が選択可能な交通の結節点となることから、駅前の利用環境の向上や鉄道・バス路線間のダイヤ接続など、ハード・ソフト両面から交通結節機能の強化に努めます。

主な施策

- 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

■防災・減災*対策の推進

- ・浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- ・駅周辺をはじめ多くの人が集まる地域では、災害に備え、生活道路やオープンスペース*の確保に努めるとともに、火災の延焼被害の軽減を図るため、防火地域・準防火地域*の指定等による不燃化の促進に努めます。
- ・災害時の指定緊急避難場所*や指定避難所*となる公共施設や公園・緑地については、誰もが安全・安心に利用できるように、更なる機能強化に努めます。
- ・災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

主な施策 防火地域・準防火地域*の指定の検討

■防犯対策の推進

- ・犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘察し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- ・地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- ・空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開



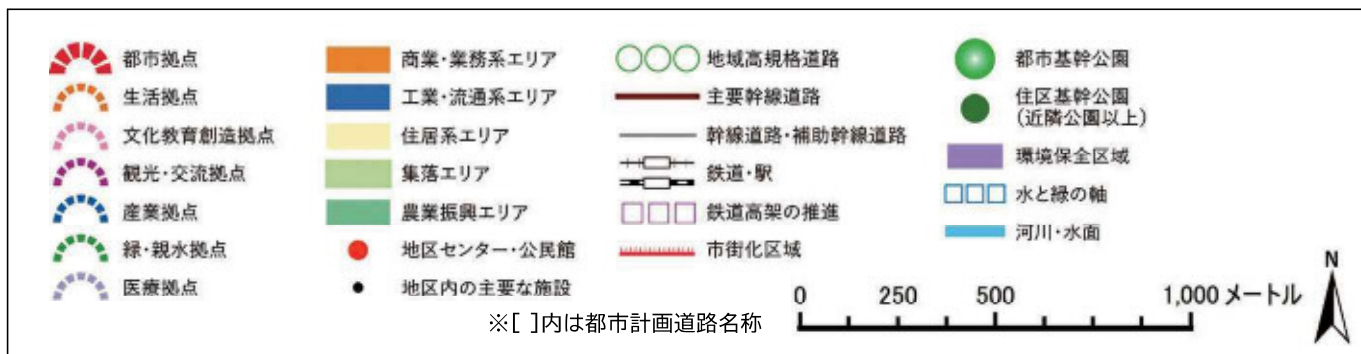
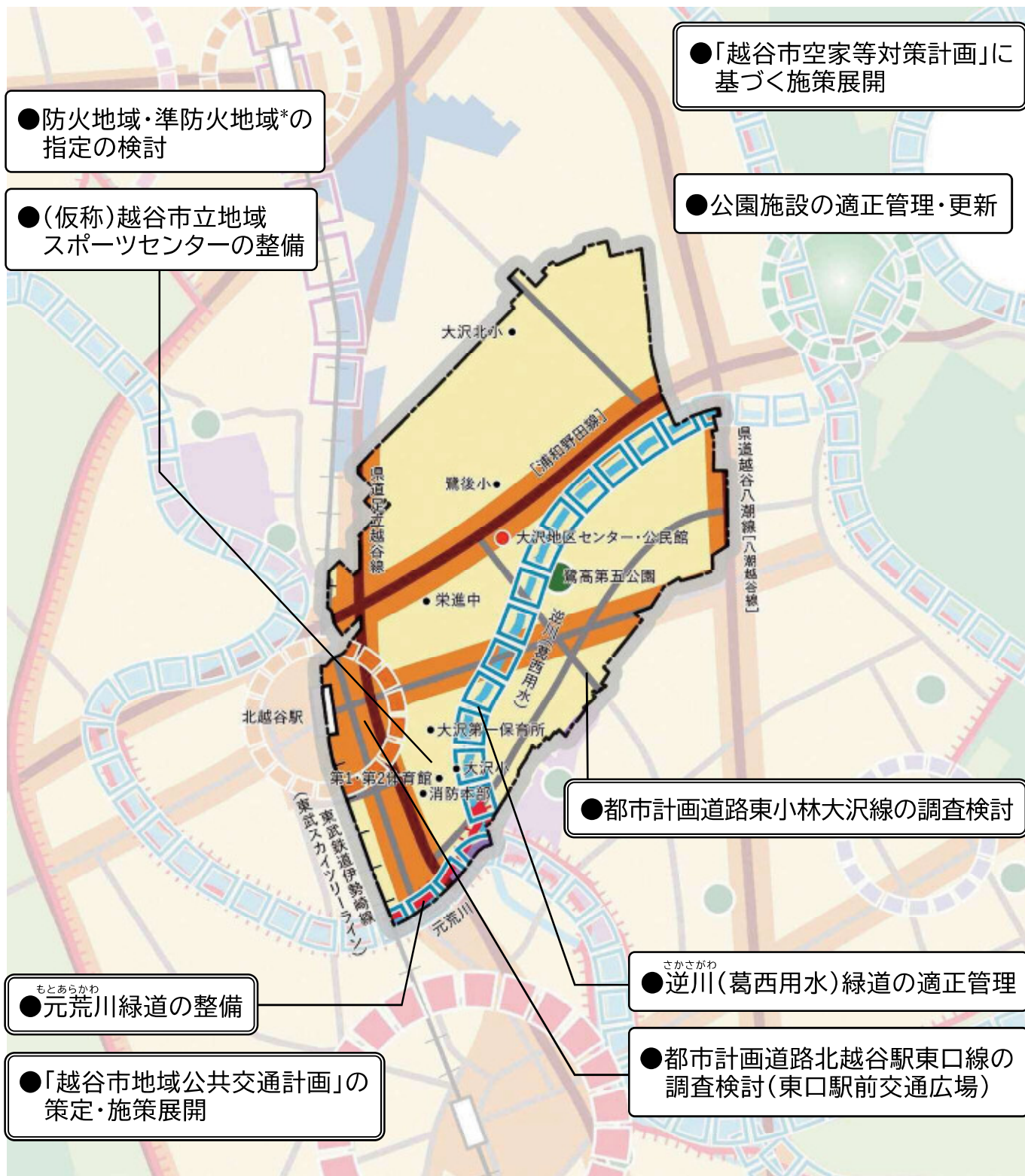
さぎたか
鷺高第五公園(キャンバルタウン公園)



さかさがわ
逆川(葛西用水)緑道

■大沢地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



大沢地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《大沢地区の将来像》

活力とふれあい 歴史を尊^{とつと}び 新たな大沢へ

《大沢地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 目標1 | 地区独自のコミュニティを育て、支えあう環境・交流の場づくり |
| 目標2 | 防災・防犯対策による安全・安心に暮らせるまちづくり |
| 目標3 | 大沢の歴史を継承し、生きがいを感じて健康に暮らせるまちづくり |
| 目標4 | 便利で暮らしやすいまちにするための基盤づくり |

《大沢地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・シンボリック存在のキャンベルタウン公園をコミュニティの活動拠点として活用するとともに、体育館に複合的な機能を持たせることで、新たな交流の場が創出され、魅力あるまちづくりとコミュニティの更なる活性化が期待されます。
- ・安全・安心に暮らせるまちづくりを進めていくため、地区のコミュニティを中心とした、防災・防犯対策の強化が求められます。
- ・地区内の高齢化が見込まれるため、逆川の遊歩道や公園等の自然資源を地域住民のふれあいの場や憩いの場、更には健康づくりの場として活用する取組を進めていくとともに、快適に利用するための維持管理や環境整備の充実が望まれます。
- ・暮らしやすいまちづくりを推進していくため、北越谷駅東口を中心とした交通網の充実や歩行者が安全に歩ける道路環境の整備も課題となっています。



大沢ふれあいフェスタ



大沢地区総合防災訓練

①地区の概況

北越谷地区は、概ね市域の中心部に位置し、地区の西部には元荒川が流れています。

北越谷駅周辺には住民の日常生活を支える商業地が形成されています。また、地区の大部分は、土地区画整理事業*によって都市基盤*が整備された良好な住宅地が広がっています。

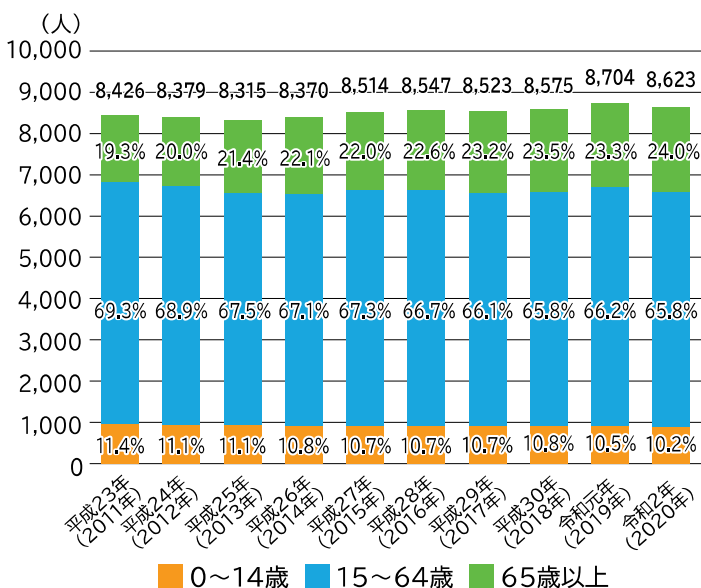
本地区は、元荒川沿いの桜並木など、良好な自然環境を有しており、電柱の地中化も進められるなど、地区全体として水と緑が調和した美しい街並みが形成されています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で8,623人となっており、市全体の約2.5%を占めています。人口の大きな増減はみられず、8,500人程度で概ね横ばいで推移しています。

土地利用は、全域が市街化区域となっているため、住宅用地を中心に都市的土地利用の占める割合が約56.3%と高くなっていますが、畑、水面、その他の自然地などの自然的土地利用の割合も、市街化区域の割合が高い他地区と比較すると約14.7%と高くなっています。

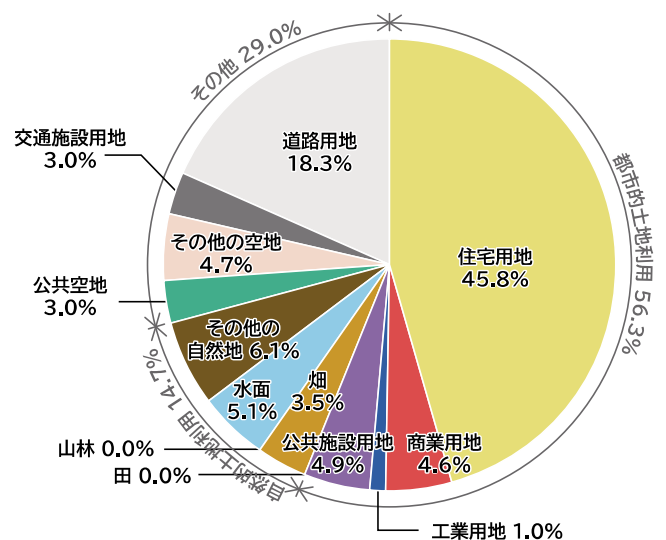


■北越谷地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料:住民基本台帳

■北越谷地区の土地利用割合



資料:平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた北越谷地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 駅周辺のにぎわいある地区づくり

方針2 水と緑を活かした環境づくり

方針3 安全・安心な地区づくり

方針1 駅周辺のにぎわいある地区づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

- ・北越谷駅周辺については、商業・業務機能の集積・誘導を促進し、商店街などの地域資源を活かしながら、日常生活を支える生活拠点の創出に努めます。
- ・北越谷駅西口広場(さくら広場)は、市民の交流の場として更なる活用を図るなど、駅周辺の活性化に向けて、市民や事業者との協働のもと、にぎわいの創出と魅力ある市街地の形成に努めます。

■市民生活を支える公共交通網の形成

- ・公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。
- ・北越谷駅は、鉄道やバス路線、タクシー、自家用車、自転車など、多様な交通手段が選択可能な交通の結節点となることから、駅前の利用環境の向上や鉄道・バス路線間のダイヤ接続など、ハード・ソフト両面から交通結節機能の強化に努めます。

主な施策

- 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

方針2 水と緑を活かした環境づくり

■水と緑のネットワーク形成

- 地区内の^{もとあらかわ}元荒川など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策 ^{もとあらかわ}元荒川緑道の整備

■集い憩える公園づくり

- 地区のシンボルである北越谷第五公園などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 公園施設の適正管理・更新



^{もとあらかわ}
元荒川



北越谷第五公園

■良好な居住環境の形成

- ・文教大学を有する特性を活かし、多様な交流によるコミュニティ活動の充実やエリアマネジメント*等を実施しながら、地域の活性化や居住環境の適正管理に努めます。

■都市の発展を支える道路網の形成

- ・円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の調査検討や既設道路の適正な維持管理を推進します。
- ・交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。

主な施策

- 都市計画道路浦和野田線の整備促進
- 都市計画道路北越谷駅南通り線の調査検討

■防災・減災*対策の推進

- ・浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- ・災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

■防犯対策の推進

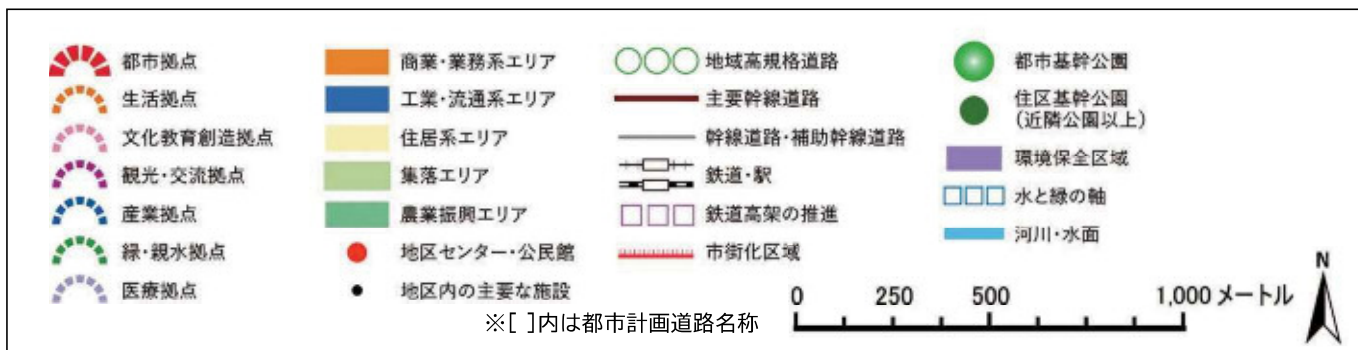
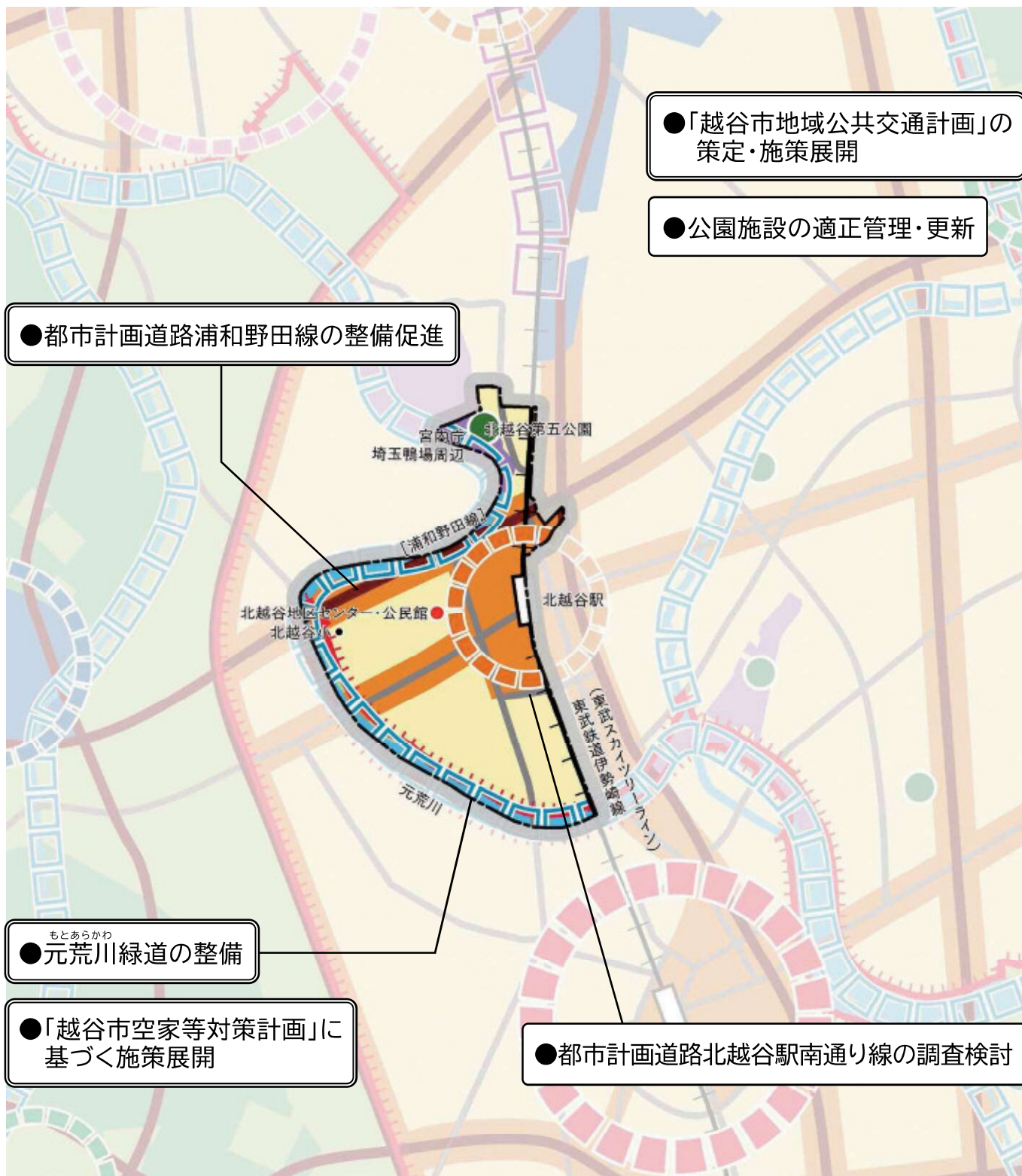
- ・犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- ・地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- ・空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策

- 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開

北越谷地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



北越谷地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《北越谷地区の将来像》

愛してますか北越谷、心ふれあうまちづくり

《北越谷地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|--|
| 目標1 | 子どもからお年寄りまで、活気とコミュニケーションの絶えないまちづくり |
| 目標2 | 防災対策や防犯活動に取り組み、安心して生活できるまちづくり |
| 目標3 | <small>もとあらかわ</small> 元荒川と桜並木を中心とする、自然を身近に感じられるまちづくり |
| 目標4 | さくら広場や商店街など北越谷駅周辺を活用した、にぎわいづくり |
| 目標5 | 歩行者にも配慮した交通環境整備による、快適な生活環境づくり |

《北越谷地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・様々な世代が地域活動に参加しやすい仕組みづくりを検討するとともに、広場や公園などの利用価値を高め、交流機会を増やしていくことが必要です。
- ・防災面については、もとあらかわ元荒川の氾濫や、地区で起こる道路冠水など、水害への危機感が強くなっており、地区全体として対策に取り組む必要があります。
- ・北越谷駅周辺の商店街については、地区住民の利用だけでなく、文教大学生を呼び込むなど、更なる活性化を図る必要があります。



クリーン作戦・花いっぱい運動



北越谷地区体育祭

①地区の概況

越ヶ谷地区は、概ね市域の中心に位置し、本市の中心的な市街地として市役所や中央市民会館など多くの行政施設が集約されています。

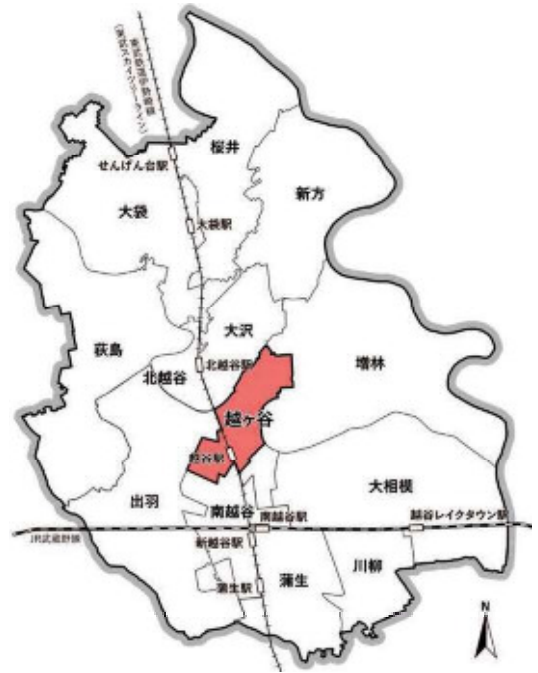
越谷駅周辺には、多様な都市機能が集積する市街地が形成され、越谷駅から市役所周辺にかけて、本市の中心的な商業・業務地が広がっています。

旧日光道中(旧日光街道)沿いには商業地が形成されており、住宅地も広がっています。

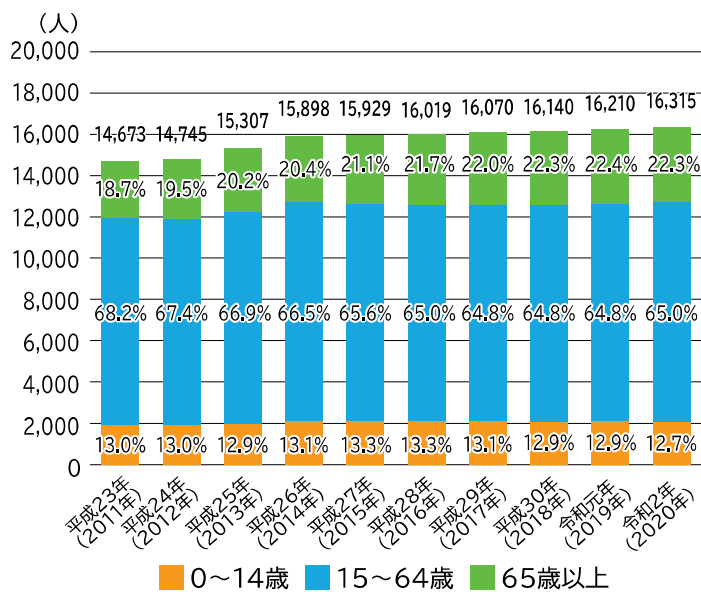
また、地区の中央には元荒川や葛西用水が流れ、環境保全区域*となる久伊豆神社周辺などの貴重な自然環境も有しています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で16,315人となっており、市全体の約4.7%を占めています。越谷ツインシティの開業により、平成25年(2013年)以降人口が増加傾向にあります。

土地利用は、全域が市街化区域となっているため、住宅用地などの都市的土地利用の占める割合が約65.8%と13地区の中で最も高く、特に市役所や中央市民会館など、大規模な公共施設を有しているため、公共施設用地が約12.8%と高くなっています。田や畑、その他の自然地などの自然的土地利用の割合は約5.9%となっています。

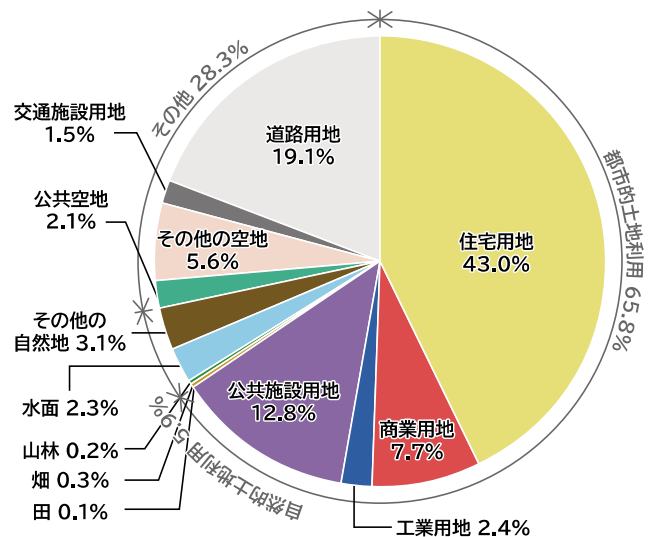


■越ヶ谷地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■越ヶ谷地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた越ヶ谷地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 魅力と活力ある居住環境づくり

方針2 豊かな水辺と緑の保全・活用

方針3 安全・安心な地区づくり

方針1 魅力と活力ある居住環境づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

・越谷駅周辺については、行政、文化、商業・業務、医療・福祉・子育て支援機能などの多様な都市機能が集積した、にぎわいの創出と魅力ある市街地の形成に努め、商店街など地域の更なる活性化を目指し、都市の顔となる都市拠点の創出に努めます。

■越谷らしい景観形成の推進

・旧日光道中(旧日光街道)沿道における宿場町の面影を残す地域資源の保全・継承や魅力創出に資する活用を図り、歴史・文化が感じられる愛着や誇りを持てる景観づくりに努めます。

■公共施設等の適正管理

・市民の安全・安心な暮らしを支える親しみのある庁舎を目指し、市役所新庁舎((仮称)市民協働ゾーン)の整備を推進し、更なる協働の都市づくりに努めます。

主な施策

市役所新庁舎((仮称)市民協働ゾーン)の整備

方針2 豊かな水辺と緑の保全・活用

■水と緑のネットワーク形成

- 地区内の^{もとあらかわ}元荒川など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

主な施策 ^{もとあらかわ}元荒川緑道の整備

■集い憩える公園づくり

- 日常生活における身近な憩いの場やコミュニティの場として、また、災害時には一時的に避難できるオープンスペース*として利用・活用しやすい公園となるよう、地域ニーズや地域特性を踏まえながら、新規整備や機能の維持・充実に努めます。
- 緑の森公園などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 (仮称)御殿町公園の整備
 公園施設の適正管理・更新

■身近な緑の管理・保全

- 環境保全区域*に指定されている^{ひさいず}久伊豆神社周辺などの緑地については、適正な管理・保全に努めるとともに、市民や事業者との協働による緑化の推進を図ります。

方針3 安全・安心な地区づくり

■都市の発展を支える道路網の形成

- 円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の調査検討や既設道路の適正な維持管理を推進します。
- 交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。
- 歩行者を優先する通学路や生活道路では、車の速度抑制、ガードレールによる歩車道の分離など、歩行者の安全を確保する対策を進め、安全・安心に利用できる道路環境の形成を図ります。
- 沿道の街路樹等については、安全性や視認性の確保に配慮しながら、地域住民、警察、関係機関との連携による適正な維持管理に努めます。

主な施策 都市計画道路越谷駅前線の調査検討
 都市計画道路越谷市役所通り線の調査検討
 都市計画道路東小林大沢線の調査検討

■市民生活を支える公共交通網の形成

- 公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。

主な施策 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開

■防災・減災*対策の推進

- 浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- 駅周辺をはじめ多くの人が集まる地域では、災害に備え、生活道路やオープンスペース*の確保に努めるとともに、火災の延焼被害の軽減を図るため、防火地域・準防火地域*の指定等による不燃化の促進に努めます。
- 災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

主な施策 防火地域・準防火地域*の指定の検討

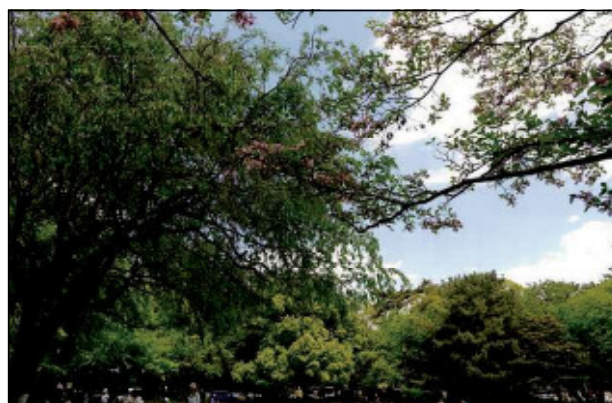
■防犯対策の推進

- 犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- 地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- 空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開



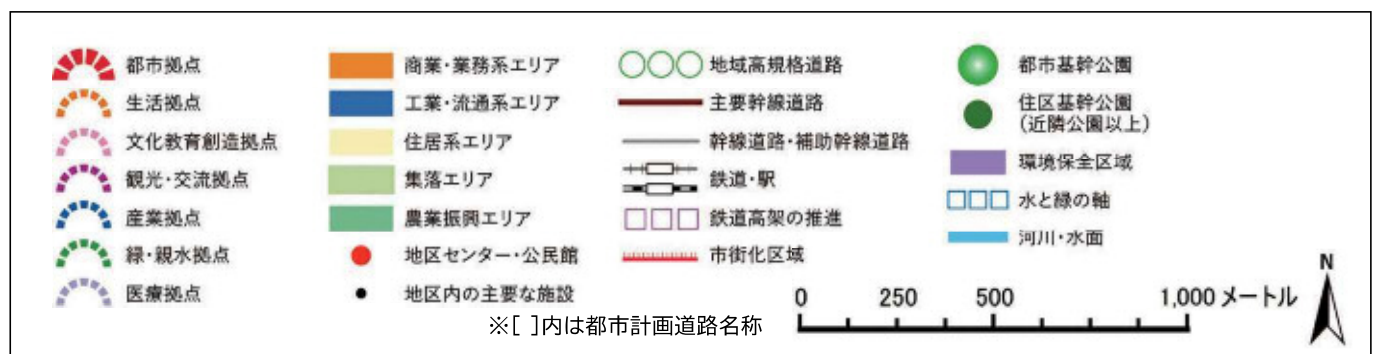
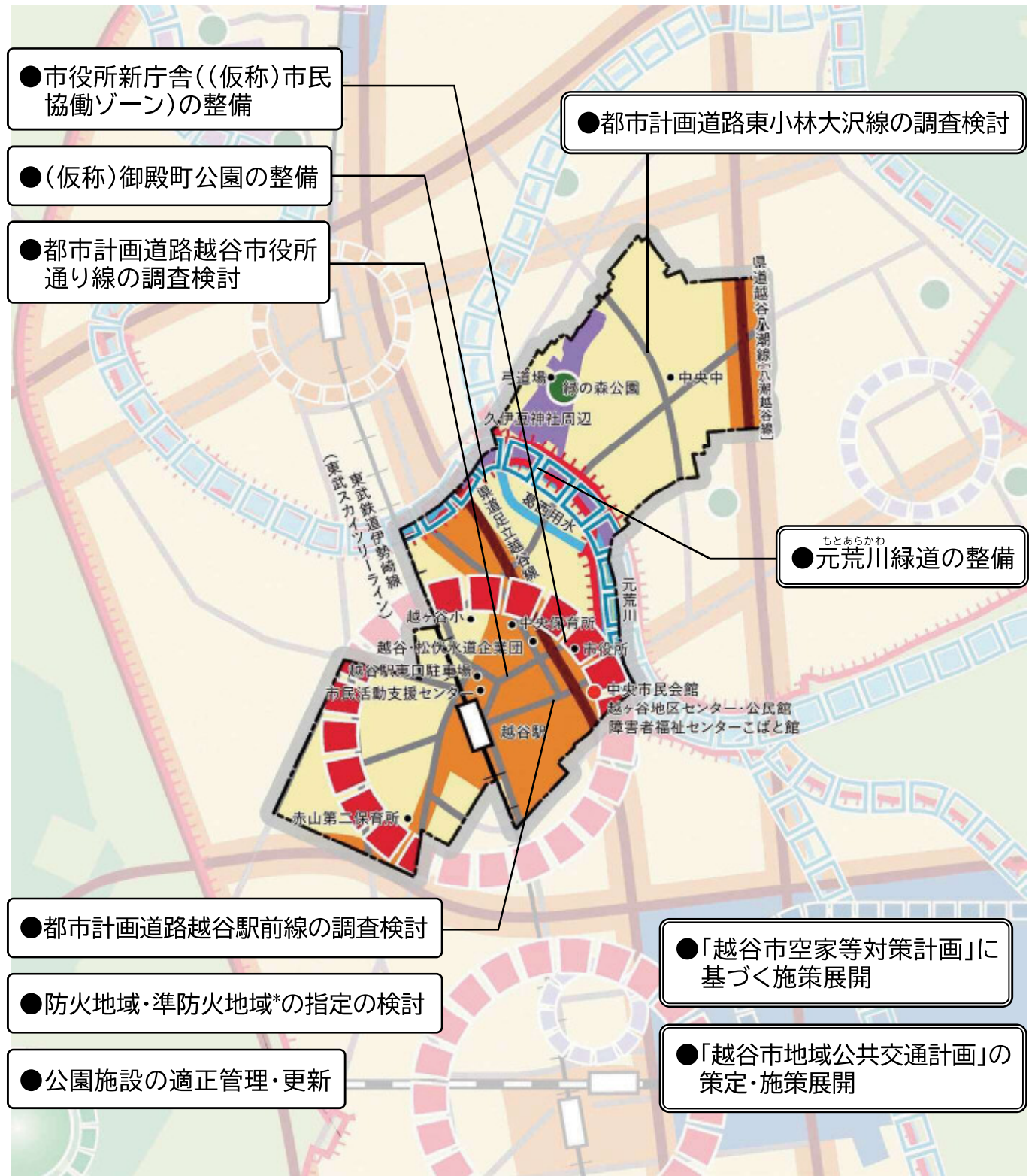
旧日光道中(旧日光街道)沿いの
古民家複合施設 はかり屋



緑の森公園

■越ヶ谷地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



越ヶ谷地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《越ヶ谷地区の将来像》

活力ある中心市街地の形成と 自然、歴史、文化の継承による魅力あるまちづくり

《越ヶ谷地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|------------------------------|
| 目標1 | 越谷の顔として魅力と活力のあるまちづくり |
| 目標2 | 伝統ある歴史・文化をまちの魅力に繋げるまちづくり |
| 目標3 | 子どもから高齢者まで、多世代が交流するコミュニティづくり |
| 目標4 | 誰もが安全・安心に暮らすことができる環境づくり |
| 目標5 | まちなかの豊かな自然環境を保全・活用したまちづくり |

《越ヶ谷地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・日光道中沿いの商店街には、蔵造りの建物などの歴史的なまち並みがある一方で、空き店舗が目立つなど、商店街の活性化が課題となっております。
- ・地区内は、近年マンションなどが増え、住民同士での交流は少なく、自治会の加入者も減少していることから、ふれあい・交流機会を増やし、信頼し合える地域コミュニティを形成していくことが求められます。
- ・近年大規模な震災が各地で発生している中、本地区においても災害が起きた時の被害を最小限に食い止めるための防災活動の充実が求められます。地区内には街路灯が少なく、治安上の不安もあることから、防犯面での対策も課題となっております。



越ヶ谷コミ協まつり(ふれあいステージ)



紅白玉入れ大会

①地区の概況

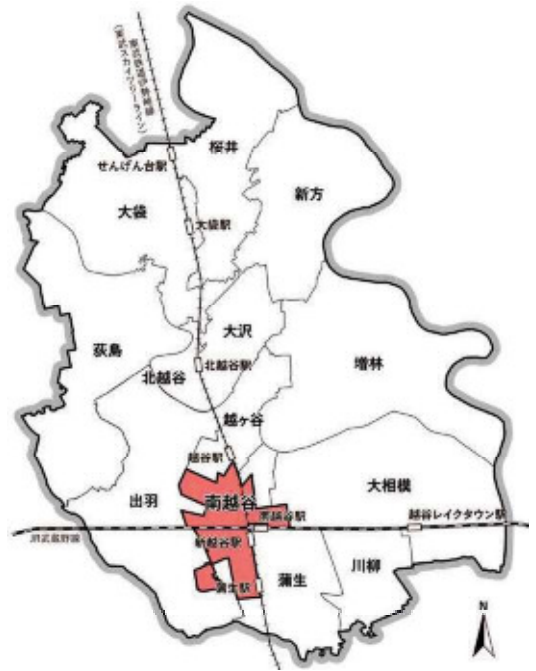
南越谷地区は、市域の南部に位置し、東武鉄道伊勢崎線(東武スカイツリーライン)とJR武蔵野線が交差する高い交通利便性を背景に発展してきた地区です。駅周辺には、土地区画整理事業*によって整備された良好な住宅地が広がっています。

本市の顔となる新越谷駅及び南越谷駅周辺には、商業・業務、医療・福祉・子育て支援など多様な都市機能が集積しており、蒲生駅周辺には、住民の日常生活を支える商業地が形成されています。

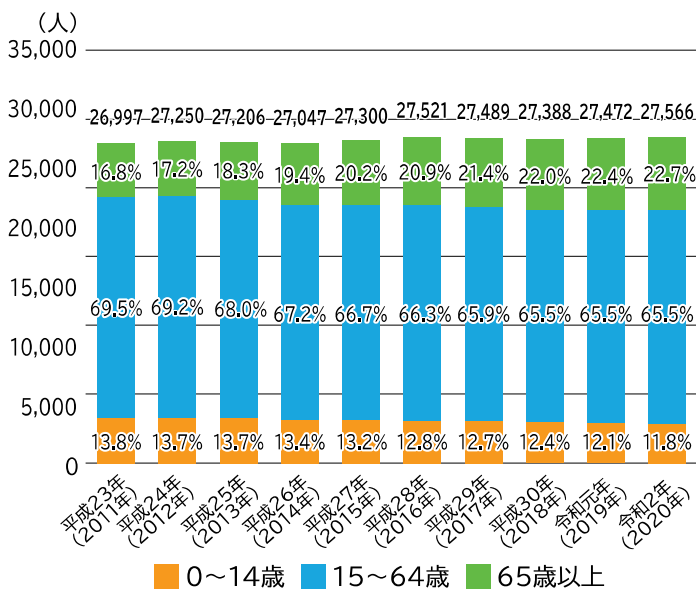
また、グリーンベルトや出羽堀などの地域資源や花いっぱい活動などにより、潤いのある花や緑が感じられる環境が形成されています。

地区の人口は、令和2年(2020年)現在で27,566人となっており、市全体の約8.0%を占めています。平成28年(2016年)以降は、27,500人程度で概ね横ばいで推移しています。

土地利用は、地区南西部を除き市街化区域となっているため、住宅用地などの都市的土地利用の占める割合が約60.9%と高くなっており、田や畑、その他の自然地などの自然的土地利用の割合は約1.8%と13地区の中でも最も低い割合となっています。

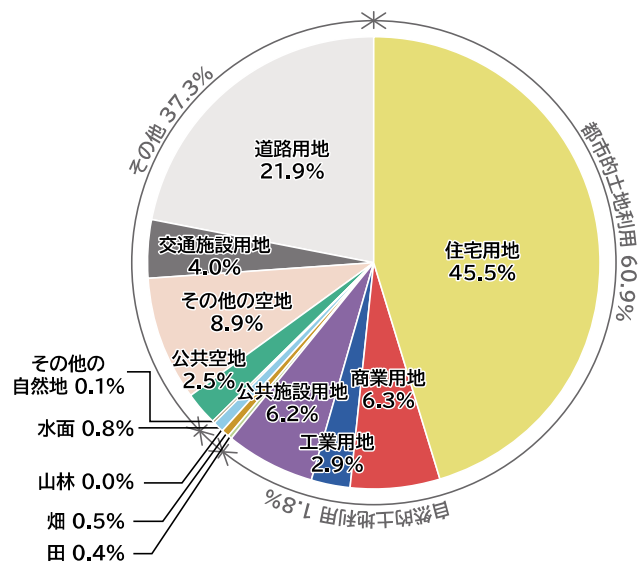


■南越谷地区の年齢3区分別人口推移 (各年4月1日現在)



※棒グラフ上部の数値は年齢3区分別の合計人口
資料：住民基本台帳

■南越谷地区の土地利用割合



資料：平成27年度都市計画基礎調査

②地区づくりの方針

地区の方々が描いた南越谷地区の将来像やまちづくりの目標など、地区からのまちづくりの展開を踏まえ、全体構想と整合を図り、都市計画の視点からの地区づくりの方針を次のように設定します。

方針1 にぎわいを生み出す地区づくり

方針2 水と緑を活かした環境づくり

方針3 快適に利用できる交通環境づくり

方針4 防災力の高い地区づくり

方針1 にぎわいを生み出す地区づくり

■魅力ある商業・業務地の形成

- ・新越谷駅及び南越谷駅周辺については、行政、文化、商業・業務、医療・福祉・子育て支援機能などの多様な都市機能の集積や商店街など地域の活性化を図り、にぎわいの創出と魅力ある市街地の形成に努め、都市の顔となる都市拠点の創出に努めます。
- ・蒲生駅周辺については、商業・業務機能の集積・誘導を促進し、商店街や空き店舗の活用やイベントの開催などのにぎわいの創出を図り、日常生活を支える生活拠点の創出に努めます。
- ・交通の便に優れ、生活利便施設が立地するなどの地域特性を活かし、多様な交流によるコミュニティ活動の充実やエリアマネジメント*等を実施しながら、にぎわいの創出や地域の活性化などに努めます。

主な施策 南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業の推進

■福祉の都市づくりの推進

- ・獨協医科大学埼玉医療センターは、市民をはじめとした埼玉県東部保健医療圏*の安全・安心な暮らしを守る医療拠点として、地域医療機関との連携強化や医療機能の充実を促進します。



新越谷駅西口



南越谷第一公園

方針2 水と緑を活かした環境づくり

■水と緑のネットワーク形成

- 地区内のグリーンベルトや出羽堀など水と緑をつなぐ環境の保全や創出を図るとともに、維持管理団体など市民との協働による適正管理に努めながら、日常生活の中で水と緑にふれあえるネットワークの形成を推進します。

■集い憩える公園づくり

- 南越谷第一公園などの身近な公園については、利用者が安全で安心して利用できるよう、適正な維持管理や利用・活用の推進に努めるとともに、維持管理団体など市民との協働による取組を推進します。

主な施策 公園施設の適正管理・更新

■身近な緑の管理・保全

- 身近な緑に対する市民の関心を高め、日常的な緑化活動への参加を広げるため、情報の発信や啓発活動などを図り、市民や事業者との協働による緑化を推進します。

方針3 快適に利用できる交通環境づくり

■都市の発展を支える道路網の形成

- 円滑で利便性の高い道路網を形成していくため、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の調査検討や既設道路の適正な維持管理を推進します。
- 交通量の多い駅前や幹線道路周辺については、交通安全施設の整備や交通規制の実施など、地域住民、警察、関係機関との連携により、歩行者等が安全で快適に通行できる道路環境の形成に努めます。
- 歩行者を優先する通学路や生活道路では、車の速度抑制、ガードレールによる歩車道の分離など、歩行者の安全を確保する対策を進め、安全・安心に利用できる道路環境の形成を図ります。
- 沿道の街路樹等については、安全性や視認性の確保に配慮しながら、地域住民、警察、関係機関との連携による適正な維持管理に努めます。

主な施策 都市計画道路越谷吉川線の調査検討
 都市計画道路南浦和越谷線の調査検討
 都市計画道路新越谷駅北通り線の整備
 都市計画道路南越谷駅北口線の調査検討

■市民生活を支える公共交通網の形成

- ・公共交通は日常生活に身近な交通手段となることから、市民や事業者との連携・協働を図りながら、バス路線などの維持・充実に努めます。
- ・東武鉄道伊勢崎線(東武スカイツリーライン)とJR武蔵野線の乗換駅である新越谷駅及び南越谷駅周辺については、鉄道やバス路線、タクシーなど多様な交通の結節点として、ハード・ソフト両面から交通結節機能の強化に努めます。

主な施策

- 「越谷市地域公共交通計画」の策定・施策展開
- 新越谷駅西口の整備の検討
- 南越谷駅北口の整備の検討

方針4 防災力の高い地区づくり

■防災・減災*対策の推進

- ・浸水被害の軽減に向けて、雨水排水施設*等の適正な管理に努めるとともに、雨水流出抑制対策等の総合治水対策*を推進します。
- ・災害時の指定緊急避難場所*や指定避難所*となる公共施設や公園・緑地への防災備蓄倉庫などの関連施設の充実・強化に努めます。
- ・駅周辺をはじめ多くの人が集まる地域では、災害に備え、生活道路やオープンスペース*の確保に努めるとともに、火災の延焼被害の軽減を図るため、防火地域・準防火地域*の指定等による不燃化の促進に努めます。
- ・災害発生時に備え、災害リスクや避難場所などの情報を周知するとともに、地区コミュニティが主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施など、防災意識の向上に向けた取組を促進します。

主な施策

- 防火地域・準防火地域*の指定の検討

■防犯対策の推進

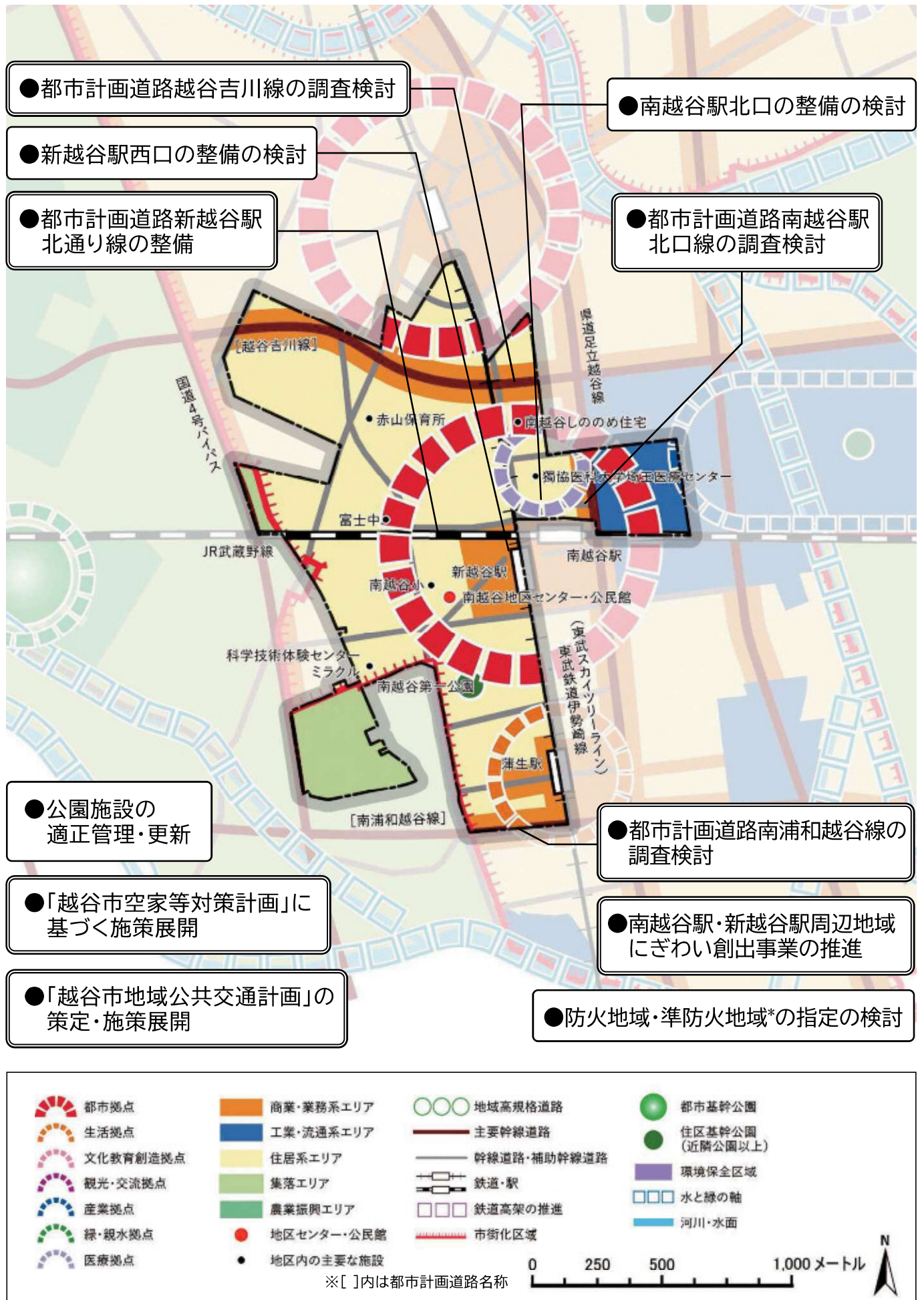
- ・犯罪の抑止効果が期待される防犯カメラの設置については、犯罪の発生状況を勘案し、警察等との連携を図りながら、設置促進に努めます。
- ・地域による防犯パトロールやコミュニティ活動を通じたソフト対策の充実を促進し、地域の防犯意識の醸成を図ります。
- ・空き家・空き地の適正管理や発生予防を推進するとともに、道路などの整備に際しては、街路灯の設置促進など、地域の防犯力向上に努めます。

主な施策

- 「越谷市空家等対策計画」に基づく施策展開

■南越谷地区 地区づくり方針図

※二重線枠は、他地区との一体的施策を示す。



南越谷地区の将来像・目標

地区の将来像や目標は、「第5次越谷市総合振興計画」の策定にあたり、様々な立場の委員で構成される「地区まちづくり会議」において、地区の目指す姿を地区住民自らが描いたものです。

《南越谷地区の将来像》

みんなで 住みよいまちづくり 南越谷

《南越谷地区のまちづくりの目標》

- | | |
|-----|-------------------------|
| 目標1 | すべての世代がいつまでも続いていける仲間づくり |
| 目標2 | にぎわいと健康・学習のまちづくり |
| 目標3 | 環境豊かな 安全・安心のまちづくり |

《南越谷地区まちづくり会議での主な意見》

「地区まちづくり会議」では、将来像や目標を議論する中で、都市づくりに係る地区の課題として、主に次のような意見がありました。

- ・子どもから高齢者まで、幅広い年代が暮らす本地区では、世代間の意識の相違によるコミュニティの希薄化、住民の高齢化への対応、誰もが移動しやすい環境づくりが課題となっており、多世代を巻き込んだまちづくりの展開が求められます。
- ・鉄道駅をはじめ、公園や公共施設などの充実した都市機能や、良好な水と緑資源を有する強みを活かし、地区のにぎわい創出や利便性の向上を図りながら、現状の市街地環境の適正管理や改善にも取り組み、住民や来訪者まで、誰にとっても安全・安心なまちづくりを進めていく必要があります。



南越谷地区総合防災訓練



南越谷地区フェスティバル

